

国際航業(株)地域開発部 正 員 ○平田 顕三

国際航業(株)地域開発部 正 員 桑田 幸志朗

1. はじめに

近年、我が国では国民の生活価値観等が多様化し、「効率性」、「機能性」といった経済的観点から、「感性」、「心情」といった精神的あるいは文化的観点へと移行しつつあり、それらの重視が望まれている。当然、公共空間に対しても同様であり、「ゆとり」、「豊かさ」、さらには「地域性」が実感でき、特に地域住民が誇りをもてる空間の創出が重要となってきた。

本稿では、街路空間という公共性の高い空間に地域性を活かした景観を創出するための検討について、計画から実施に至るまでの間の実現性を重視した策定方法について、平成6年7月に和歌山県で開催された「世界リゾート博」への主要なアクセス道路となったＪＲ和歌山駅前の大通りにおける街路景観検討を例として考察するものである。

2. 対象路線の概要

対象路線は、和歌山県和歌山市のＪＲ和歌山駅前を起点に東西に延びる和歌山停車場線である。本路線は、幅員約50m、延長約2kmで、幅員構成は歩道部が8.5m、停車帯2.5m、車道が中央分離帯を設置した片側3車線で12時間交通量は、約22,000台である。路線沿道には和歌山城をはじめ、行政機関や金融機関が集積し、本市の中心市街地を形成している。

本路線は、鉄道駅へのアクセス路の機能を持つことから、通勤・通学のために多数の地域住民が利用する生活道路であるほか、本市への来訪者が降り立つ最初の場所であり、本市の玄関口として代表的な位置づけにあることから、そ

れらの生活道路や和歌山市の顔としてふさわしい道路環境及び景観の創出が求められた。

3. 街路景観検討の概要

本検討は、歩道部を中心に街路景観の検討を行うものとした。

経済的観点からは、地域住民にとって日常的に利用する生活道路であることから、街路として快適かつ安全に歩行あるいは自転車の走行ができるという機能が重要で、来訪者にとっては、和歌山という地域性や風土を感じながら憩いというおいのある快適性・アメニティという機能が重要であった。

それらを両立する街路を目指すものとし、歩道部について沿道側を動線空間、車道側を公園的空間と設定し、それぞれの機能を分離するものとした。

機能分離を明確にするために、歩道部及び停車帯においては縦断方向に層状を形成する舗装を施すことを前提として景観検討を行うものとした。

景観形成にあたって、地域性の抽出が重要であり、その素材としては以下の視点に基づき行うものとした。

- | |
|---|
| ①地名の語源にまつわるもの
②地域の風土に根ざしたもの
③地域に営まれてきた生活、生産、産物
④現在に引き継がれてきた歴史的なもの
⑤地域が今後かくあるべしとする姿勢 |
|---|

このうち、特に④に係わるものとして【和歌山城】【紀州手鞠】【城下町】に着眼し、それを街路景観検討のデザイン素材として計画策定を行った。

その結果として、歩道部における舗装デザインは、機能分離の層状に併せ、城の構成要素である『石垣』『漆喰の壁』『黒の瓦屋根』を沿道側から『大判の原石平板』『ホワイトコンクリート』『瓦と同素材の陶磁器平板』に見立てて配し、さらに城のモノトーンにアクセントを施すための【紀州手鞠】の幾何学模様を明度の高い小舗石で抽象化するものとした。

4. 具現化方策の考察

本検討では、施主である行政及び地域住民の代表者、学識経験者等の委員で構成する整備検討委員会を設置し、デザイン等について討議を行い、広範な人々の意向を十分に踏まえた計画策定を行うほか、前述の街路景観について机上の検討を行うだけでなく、各素材感や色調の確認と歩行性や自転車の走行性について、実際の舗装材による試験施工を行い、検証することを具現化の方策として実施するものとした。

特に試験施工においては以下の視点に重点を置き、それぞれに対して検証結果（考察）は以下のとおりであった。

①瓦と同素材の平板の歩行性と色調の検証

瓦と同素材の陶磁器は、雨天において滑り易い特性を持っており、その傾向は大判になればなるほど増大する傾向にあった。

本検証では、瓦をイメージするためにある程度の大きさが必要であることから、通常の人間の足より小さなサイズとなる 210mm角の陶磁器を使用し、目地を入れることで滑り易さを解消するものとした。また、瓦と同様の素材であるが、瓦と違い舗装材としての強度が必要であることから、黒さ自体が薄くなる傾向にあったものを、製品作成の段階でさらに高温焼きで処理することで解決策を講じるものとした。

②手鞠を表現する小舗石の色調の検証

手鞠を表現するためには、鮮明な赤色を使用することが机上では必要となっていたが舗装材の強度を充足するためには、低温の焼き物でしか出せない赤は、発色しにくく、イメージと異なることから、周辺の素材色でカバーすることで赤みを表現する方策を講じるものとした。

③円形舗装の歩行性と色調の検証

手鞠を表現することが目的であった円形舗装は、②の理由より規模を縮小することとなったほか、円形舗装は目地が大きくなるという欠点があることを検証したが、女性のハイヒール等への課題が明示されたが円の規模縮小によりその影響を軽減する方策を講じるものとした。

試験施工では、机上の検討段階では把握しきれなかった素材感の相違や歩行上の滑り易さ等の検証を行ったほか、微妙な色調の調整を行う上で有効であり、実物を見ながら客観的な視点からの検討を可能にし、さらに具体的な変更や調整を行えるものであった。



写-1 試験施工実施状況

5. まとめ

今後、公共空間における整備にあたっては、機能優先ではなく、地域性や風土を加味した景観形成が重要な視点となり、地域住民にとっては機能と地域性の両立が求められ、来訪者にとっては地域独特の個性を体感できる空間が求められるものと考えられる。

その実現にあたって、現実的な点についても綿密かつ繊細な検討が必要であるとともに、地域住民や専門的知識を有する学識者等の広い分野の人々の合意集約を目指すためにも、試験施工等に準ずる客観的かつ実質的な検討方法を構築し、実践することが肝要であろう。